

子の尊厳守る 保育の在り方は

美浜 日福大生ら150人参加シンポ



保育の在り方について意見を交わした登壇者＝美浜町の日本福祉大で

美浜町の日本福祉大で30日、保育者の倫理や子どもの権利に関するシンポジウムがあった。子ども発達学科の学生ら約150人が、より良い保育について考えを巡らせた。

およそ4割と、他大学の保育系学部より男性の割合が高い日福大。男性保育者が加害者となる事件が全国で明らかになり、子どもとの距離感に悩んでいる男性もいるという。

シンポジウムは、子ども

の尊厳や保育者の在り方を改めて考えてもらい、学生が萎縮せず保育に関わっていくことを目的に開いた。弁護士や保育園長、臨床心理士ら4人がそれぞれ講演した。

長久手市の児童養護施設長、岩田正人さんは、子どもとの関係構築に懸命なばかりに、距離感を見誤る保育士がいると解説。「周囲の職員とコミュニケーションを取り、子どもとどのような意図でどう接している

のか説明することが重要」と述べた。

東郷町の認定こども園における不適切保育問題で、第三者委員会委員長を務めた川口創弁護士も「不適切保育をなくすには、集団で保育について話し合う環境

が大事」と指摘。「圧倒的多くの男性保育士は信頼されている」とし、「性別にかかわらず、職員間の対話を通じ、自身の保育を謙虚に見つめ続けてほしい」と語った。

(石井豪)